



「平和を考える」

校長 望月雄紀

本校では、6月16日6校時に体育館にて「平和講演会」を開催しました。講師として、沖縄キリスト教学院大学の新垣誠教授をお招きしました。いつもとは違った視点からの講演に生徒も関心を持ち、講師からの問いかけにも、積極的に答えていました。講演会終了後には教授から「寄宮中学校の生徒の聞く態度と反応が、とても素晴らしいですね。」とお褒めの言葉をいただきました。



世界では、ウクライナ戦争、日本でも先日のJアラートが発動したように北朝鮮からのミサイルに平和をおびやかされています。今回の講演会は、「自分の中の平和」を考える良い機会となりました。以下、上原美絵平和学習担当教諭の平和への思いです。

平和教育講演会を終えて

様々な事件、事故がニュースで飛び交う現社会、日本。青春時代を、昭和～平成で過ごした私にとって、これからの時代がどうなされるか不安を抱くこともしばしば。しかし、そんな日本も世界的な規模でくれば、きっと平和な国に位置づけられるでしょう。今、サンプラザから聞こえる小鳥のさえずりに気持ち穏やかに、こうして平和についてタイピングが出来ること自体、平和だからこそ。戦争が起きている国では、到底無理なことで、ましてや平和の主張もできなくなります。つまり、「今の日本（＝戦争がない日本）だからこそ平和教育ができる」といえるかと思えます。年齢を重ねる毎に、これからの社会を生きる我が子の幸せ、そして世界平和を願う気持ちがますます大きく強くなってきた今日この頃。それは、平和教育担当云々ではなく、4人の子の母親として、また一教師、一大人、そして自分事として深く考えられるようになってきたからだと思えます。確かに戦争はなく、世界的な規模で考えれば一見「平和な国」に見えるかもしれません。

しかし、果たして「平和な国」「戦争のない国」だから「安心・安全な国」なのでしょうか。決して、イコールの関係にはならない、と私は思います。私たち大人は、すぐ傍にいる子どもたちの現状をしっかりと見てあげなければならない状況だと考えています。例えば、学校における「いじめ」問題を上げますと、この問題の報道はいつの時代も絶えません。携帯電話の普及に伴い、いじめの内容も昔とは少し変わってきたように、また複雑になってきているように感じます。果たして、いじめで苦しんでいる子どもたちにとって、彼らを取り巻く社会、日本は「平和な国」なのでしょうか。到底、そうは思えないはずで、苦しくてたまらないはずで。

コロナ渦でマスク着用が求められ、様々な行事が取りやめもしくは縮小になり、以前は賑やかだった給食時間が黙食になり、人との関わりが希薄になっていた子どもたち、そして私たち大人も含め、今年度の「平和教育講演会」の内容は、一度立ち止まって、自分で自分の気持ちや考えを内省することや、自分の言動などを振り返ってじっくりと考えられる機会になったと思えます。

「私の中の平和」

ユネスコ憲章の前文に倣い、戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。 — 今年度 平和教育講演会テーマ —

「全世界恒久平和」のために何か大きなことは出来ないかもしれない。しかし、「幸せは他人との関係にある」ということ。「自分一人のチカラで生きているようで、実はまわりに生かされている」ということ。「弱い自分を守って助けてくれる仲間や家族に感謝」すること。「安心は信頼からしか生まれぬ」ということ。「平和への糸口は、自分自身の中にある」ということに改めて気づかされた1時間になりました。きっと子どもたちも同じように感じられたと思えます。



これからの時代を生きる子どもたちの幸福を願い・・・

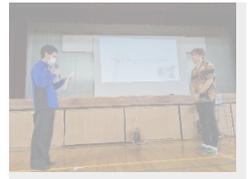
～ PEACE BRIGNS WITH A SMILE ～平和は微笑みから始まる マザー・テレサ

【平和教育担当：上原 美絵】

平和教育講演会の感想

【生徒会総務】

本日は寄宮中学校の生徒の為に、講話をしていただき誠にありがとうございました。6. 23の慰霊の日を迎えるに当たり、改めて平和について考える貴重な時間になりました。先生のお話を聞き、今年はこれまでと違った方向から平和を考えることが出来ました。特に印象深かった言葉は、「人間は支え合わないと生きていけない」と言う言葉で、困ったときは一人で塞ぎ込まずに、ちゃんと心のマスクを外して相談しようと思いました。今日の講話を聞いて、当たり前にある日常が本当は幸せで貴重であることを改めて感じました。私たちは今平和を築く為に大きなことは出来ませんが、小さなことにも幸せを感じ、心の平和を築いていきたいと思います。



台湾交流

「台湾 花蓮県化仁国民中学校芸術ダンスクラス 2023 国際交流 in 寄宮中学校」

台風接近があり、実施できるのか心配していましたが6月6日(火)、2校時に花蓮県化仁国民中学校の生徒25名と教職員7名が来校しました。3校時は、体育館で1学年の生徒と交流会を行い、寄宮中の1年生は、スライドを使用しながら日本語と英語で台湾と沖縄の違いを説明していました。また、あるクラスの発表では流暢な中国語も加えて説明すると、自然と拍手が起こりとても盛り上がりました。6月のこの時期の1年生が英語で説明しているのを聞いて、英語力やプレゼンする力に驚き、生徒のポテンシャルの高さに感動しました。



台湾の中学生は、民族の踊りなどを披露してくれました。指先まで意識した素敵な踊りに皆、魅了されていました。4校時は、各学級で授業を一緒に受けながら交流を深めて清掃後には積極的に交流する1年生がたくさんいて感心させられました。

1年生がタブレットを活用して交流する姿や相手が困らないように行動する優しさなど素敵などころを多く見ることができました。この交流会で、生徒の新たな一面が見られたことは大きな収穫でした。【生徒指導主事：宮城豪教諭】

熱戦！中体連

5月下旬から6月中旬にかけて、那覇地区中学校夏季体育大会が開催されました。各競技で熱戦が繰り広げられました。以下結果になります。

- 女子バレーボール部 ベスト8 (県大会出場) ○男子バレーボール部 ベスト16
- 女子バスケットボール部 2回戦敗退 ○男子バスケットボール部 1回戦敗退
- 女子ソフトテニス部 ベスト8 (県大会出場) ○男子ソフトテニス部 ベスト6 (県大会出場)
- 野球部 2回戦敗退 ○サッカー部 ベスト8 (県大会出場) ○女子バドミントン部 1回戦敗退
- 男子バドミントン部 1回戦敗退 ○剣道部 団体5位 (県大会出場)
- 水泳部 女子100m平泳ぎ第1位、200m平泳ぎ第2位 (県大会出場)

●その他大会等でも生徒が活躍しております。以下紹介します。

- ・春季総合小中高、春季短水路年齢別、夏季総合水泳競技大会 50m平泳ぎ 各第3位
 - ・第69回全日本中学校通信陸上競技大会
男子共通ジュベリックスロー 第1位、第4位
女子共通ジュベリックスロー 第5位
男子共通走り高跳び 第5位
 - ・「押し文大賞」講談社読書感想文コンクール 優秀賞
 - ・2023年度情報通信の安心安全な利用のための標語 企業優秀賞 (ソフトバンク賞)
- ※ 生徒氏名は個人情報のため、掲載を控えております。

ペーパーレス化への協力願ひ

保護の皆様にご協力をお願いします。本校のペーパーレス化にご協力をいただきたいと思います。本校に割り当てられている事務費が逼迫しており、授業で使用するワークシートやテスト等支障をきたさないようにするためにも、本校より発信するお便りに関しては、原則メーリングシステムとホームページを活用したいと考えております。メーリング登録がお済みでない方は、なるべく早くお願いいたします。ご都合で、紙媒体が必要な方は、7月27、28日に実施する三者面談時に申し出てください。また、メーリング登録がお済みでない方は、その日に登録ができるようにしていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。